

令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

メイトガレイ瀬戸内海東部

対象水域	瀬戸内海東部	参画機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 社会・生態系システム部、大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部水産技術センター、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター、岡山県農林水産総合センター水産研究所、香川県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課
------	--------	-------	--

- ・ 令和 2 年度資源評価調査報告書を公表済み（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2020/report_2020_35.pdf）、次回令和 7 年度を予定

(1) 調査の概要

- ・ 機構および大阪府は生物学的特性に関する情報収集調査を実施
- ・ 各府県は漁獲統計調査を実施
- ・ 本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

(2) データ収集状況

- ・ 大阪府では標本漁協における1989～2023年の月別漁獲量、延べ出漁隻日数データ、努力量当たり漁獲量（以後、「CPUE」と記載）を収集済み。標本漁協における2015～2023年の標本船漁獲物の測定データ（全長、体重、性）を収集済み
2024年以降の月別漁獲量、延べ出漁隻日数データ、CPUEを収集中
- ・ 兵庫県では標本漁協における1992～2023年のCPUEを収集済み
2024年以降のCPUEを収集中
- ・ 岡山県では県東部と県西部の標本漁協における2019～2023年の月別漁獲量およびCPUEを収集済み
2024年以降の月別漁獲量およびCPUEを収集中
- ・ 香川県では播磨灘（3漁協）、備讃瀬戸（2漁協）および燧灘（2漁協）の標本漁協における2002～2023年の年別漁獲量およびCPUEを収集済み
2024年以降の年別漁獲量およびCPUEを収集中
- ・ 徳島県では紀伊水道の標本漁協（2漁協）における2005～2023年の月別漁獲量およびCPUEを収集済み
2024年以降の月別漁獲量およびCPUEを収集中
- ・ 機構では漁獲量以外の利用可能な情報（漁法、努力量等）について情報収集中

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度資源評価調査報告書を参照 (https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2020/report_2020_35.pdf)
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

- ・瀬戸内海東部海域の各府県における本種を対象とした漁業概要については以下の通り
- ・大阪府では、本種は大阪府内の小型底びき網（石げた網）の主要な漁獲対象である。同じく底びき網の一種である板びき網でも漁獲され、通年漁獲される
- ・兵庫県では、本種を対象とした主要漁業は小型底びき網と建網である。2006年より漁業・養殖業生産統計年報でメイタガレイの漁獲量が取り扱われなくなったため、それ以降の漁獲量は不明である
- ・岡山県では、主に小型底びき網および刺網で漁獲される。その他、敷網や小型定置網でも漁獲される
- ・香川県では、主に小型底びき網で漁獲される
- ・徳島県では、主に小型底びき網で漁獲される

- ・瀬戸内海東部海域における本種の漁業に関連した各種規制措置などについては以下の通り
- ・大阪府では、過去には全長10 cm程度の小型個体も「小めいた」銘柄として漁獲、流通していたが、現在は資源管理底びき網漁業管理部会において全長13 cm以下の個体は再放流するよう求められている。そのほか底びき網の操業時間や禁漁日の設定が行われている
- ・岡山県では、全長10 cm以下の個体が獲れた場合には、1隻1日操業あたり5尾を上限として、それらの小型個体を再放流することとしている（6尾目以降は水揚げできない）
- ・香川県では、漁業者の自主的な取り組みとして、一部地区の小型底びき網、定置網および建網（底刺網）において全長16 cm以下または15 cm以下の小型個体の再放流が行われている